



## 第104回 | 私のスケッチブック

### 「コッツウォルズで一番美しい村・バイブリー」

バイブリー／コッツウォルズ（イギリス）



コッツウォルズは、イングランド中央部に広がる丘陵地帯に位置し、300年以上も時間が止まったような佇まいが残り、最もイングランドらしい風情に満ち溢れる地域です。ここに広がる観光ルートの中で、最も人気の高いハイライトがバイブリーと云われます。

この作品を描いた場所は、アーリントン・ロウと申します。14世紀にコッツウォルズ地方で飼育された羊毛の保管倉庫として建てられ、その後に織物工の住まいとなり、現在も人々が暮らしを営んでいますから驚きです。

このライムストーンとかハニカムカラーと云われる石灰石を積み上げた家々を観たウィリアム・モリスが「イギリスで一番美しい村」と称賛します。彼は、中世の手仕事を尊重し、日常生活と芸術の統合を概念として目指したアート&クラフツ運動の創始者のひとりですから、一気に世界中から注目されました。

文句なしの観光地なのですが、何とも観光地らしく

ないのですから不思議な場所です。その静けさは、バイブリーの多くの建物群がナショナルトラストによって管理され、古き懐かしい世界を今も守り続けているからだと考えられます。

テムズ川の支流であるコルン川がバイブリーの中心部を流れ、清らかな水を利用して鱒の養殖が盛んです。沢山の養殖場があり、釣り堀やBBQを楽しめて、併設された土産物店では素敵なデザインの手タオルや優しい香りの石鹸等も購入出来ますから結構な人気スポット。宿泊とランチのお奨めは川沿いのスワン・ホテルで、当然ながら鱒料理を堪能させてくれますし、食後のデザートも美味しいです。宿泊施設に併設された庭から羽を休める野鳥や白鳥の姿に癒されます。

バイブリーを訪ねるには、1971年に昭和天皇がこの地を訪ねられて以来、日本人には大人気ですから団体ツアーがお奨めです。

延原 慎吾



1946年、岡山県生まれ。現在、東京都内在住。物流会社を経営するかわら欧州物流コンサルタントとして渡欧の際、歴史的建造物及び風景の美しさに魅せられて水彩画を始める。  
「第70回 全国カレンダー展」に11度目の入選を果たし、その実力を発揮する。  
<http://www.urban.ne.jp/home/nobu36>

水彩画 延原

検索